

功 勞 賞

直木秀夫氏 [元 サントリー生物有機科学研究所, 農学博士]



直木秀夫氏は、一貫して、最新の機器分析法による微量試料の構造決定に取り組んできた。そのなかでも複雑な構造をもつ天然物の質量分析法による超微量構造決定において、サントリー生物有機化学研究所では、機器分析室リーダーとしての研究支援統括のみならず第一線の研究者として測定を実践し、同時に事業統括のマネジメント面でも卓越した功績を永年にわたり残された。

このような手腕と経験は、定年退職後も5年間にわたる沖縄県地域結集型共同研究事業でもいかに発揮され、短期間のうちに沖縄地域の質量分析の啓蒙と充実に多大な貢献を集中的にされた。

直木氏の功労は、共同研究を通じて最先端の測定技術・技法を開発・駆使しながら、同時に多くの共同研究者・関係者にその技術・考え方を、現場から身をもって伝えられた点にある。幾多の大学での非常勤講師の経歴はその一端を反映したものと考えられる。また、「LC/MS の実際」「バイオリジカルマスマスペクトロメトリー」「機器分析のてびき」「有機化学実験のてびき」等の著書を分担執筆している。

本学会への貢献は、主なものに限っても、MSSJ 委員・BMS 研究会世話人・質量分析総合討論会実行委員（特に、1999 年の総合討論会大阪のプログラム委員長）・BMS コンファレンス実行委員・沖縄県地域結集型共同研究事業を通じての質量分析業務基盤の振興への貢献等々、多岐にわたる。毎年の総合討論会研究発表を通じての質量分析測定技術の啓蒙への貢献は申すまでもない。

以上の永年かつ継続しての貢献は、本学会功労賞にまことにふさわしいものと認められた。

(日本質量分析学会表彰委員会)